

第4回生駒市総合計画審議会 第三部会

開催日時 平成30年8月9日(木) 13時30分～15時50分

開催場所 生駒市役所4階 403・404会議室

出席者

(委員) 高取部会長、藤尾委員、村上委員

(事務局) 増田市長公室長、坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、
日高秘書企画課主幹、片山秘書企画課員

欠席者 谷中委員

1 開会

2 案件

(1) 各小分野の検証(No.212・221・222・331・332)

(2) その他

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただ今から、第4回総合計画審議会 第三部会を開催する。

【事務局】 (資料確認)

2 案件

(1) 各小分野の検証

No. 212 子ども・子育て支援

【事務局】 (担当課紹介)

【高取部会長】 分野における主な課題と今後5年間の方向性などをお聞きしたい。

【担当課】 待機児童の解消に向けて様々な施策に取り組んでいるが、年々待機児童が増えている。保育園の開園や小規模保育事業の展開など受け皿は整備してきているが、新たな保育ニーズが生まれて、解消には至っていない。小規模保育所の立地条件として最適の場所である駅前に適当な空き

テナントがない。今後は小規模保育事業のさらなる展開と、企業主導型保育事業も参画していきたい。要因の1つに保育士の確保があり、保育士を確保できれば、公立の保育園でもまだ受け入れる余裕があるので、取組の一環として有効であると考えている。

【担当課】 課題は、子育ての孤立化である。現状は、地域とのつながりが希薄で子育てをする周囲の理解や協力が不十分。子育て支援拠点であるみっきランドを中心に、サービスを利用してもらうことで孤立化をさせないように取り組んでいる。そういった場があることを、子育てをしている世代に周知していきたい。

【高取部会長】 待機児童には、自主的待機も含まれているのか。また、今後待機児童数の推移はどのように見込んでいるか。

【担当課】 施設や保育士が増加しないと想定すると、待機児童は増えていくと思う。女性の社会進出や共働き世帯が増える見込みで、来年10月の幼児教育無償化に伴い、さらに児童数は増えると予想している。

【高取部会長】 現状の対策はどういったことか。

【担当課】 生駒市内で保育所を運営している民間法人に、小規模保育所の拡充をお願いしている。1つの園で増築の話も進めている。保育士不足については、昨年からの潜在保育士を対象に相談会や説明会を実施し、民間の保育所へつなげる取組を進めている。

【高取部会長】 企業主導型保育事業や小規模保育事業の推進が想定通りに進んだとしても待機児童は増えるということか。もしくは、そこが整備されれば減るという見込みか。

【担当課】 現状の待機児童数からすると、2ヶ所の小規模保育所の開所と園の増築、保育士が確保できれば、解消につながる。待機児童は、単純待機と実質待機に区分しており、待機児童数として公表している数字には自主的待機は含まない。

【高取部会長】 保育所待機児童数が指標になっているが、目標値の「0」という数字は達成可能な妥当な数字なのか。

【担当課】 今年の4月は65人の待機児童がいるが、小規模保育事業とこども園の増築による定員増を考えると、一定数は減になる。その積み重ねと

保育士が確保できれば受け入れ人数が増えるため、目標値として「0」を目指すのは妥当だと思う。

【高取部会長】 今後、待機児童が増加する可能性が高い中で、行政としては「0」に設定せざるを得ないのか。現実的に考えれば、「0」ではなく、達成可能な人数にした方がよいのではないか。

【担当課】 民間法人が保育所建設時に、施設補助金の対象にしてもらうためには、目標値を「0」にせざるを得ない。

【高取部会長】 厳しい指標の設定かと思うが、了解した。

【藤尾委員】 潜在保育士の雇用の年齢制限はあるのか。

【担当課】 特にない。

【藤尾委員】 若い人を雇用するだけでなく、元気でやる気のある高齢者を活用する方法もある。高齢者の生きがいにもなると思う。外との接点がほぼなく家庭に閉じこもって悩んでいる母親が多いと聞いている。健康課では親子を離して、それぞれが自立するような取組をしているように、子育てしやすい生駒市になってほしい。

【村上委員】 延長保育だけでなく、病児保育の充実が必要。安心して子どもが育てられる社会になってほしい。

【担当課】 阪奈中央こぐま園での病児保育や、一時預かり事業等、生駒市内の法人は多種多様な事業展開をしている。

【村上委員】 核家族化が進み過ぎて、祖父母がすぐに駆けつけることができない時はどうしたらいいのか。そうした背景があり、少子化に歯止めがかけられないのではないか。働きたい、産みたい、育てたい方をあらゆる面からサポートすると、もう少し良くなると思う。

【高取部会長】 「今後5年間の主な課題」の③は取組や方向性にあたるのではないか。課題として書くなら、どのような表現になるのか。

【担当課】 子育ての孤立化の防止、が課題。これがあるからこそ子育て支援の事業を展開している。書きぶりは検討する。

【高取部会長】 「子育て孤立化の存在」が課題ということか。

【担当課】 孤立化が引き金となって、子どもに対して良くない環境や影響が生まれ、それにより親のストレスなど他の問題につながるものが課題。家族

だけで子育てをするのではなく、「地域で支え合う子育て」につなげて考えていけば、少子化も解消されていくと考えている。

【高取部会長】 「地域で支え合う子育て」は今と昔で全然違う。それであれば、地域で支え合う子育て環境の希薄化が課題になると思う。「推進」や「防止」というと「方向性」に聞こえるので、課題と捉えづらい。「5年後のまち」の幼稚園教育の②で「～こども園化が進んでいる」とあるが、「行政の5年間の主な取組」の②2では「～こども園化を検討します」と表現を変えているのは、何か理由があるのか。

【担当課】 ②2は「進めていきます」に修正する。

【高取部会長】 「今後5年間の主な課題」の③に対応する指標が3つあるが、「行政の5年間の主な取組」は1つに集約されている。子育て総合支援センターと子どもサポートセンターが同じ枠組みで書かれているが、役割的に分けて書く必要はないのか。

【担当課】 子どもサポートセンターは児童虐待問題だけでなく、一般的な子育て相談も行っている。子育て支援、という一つの括りとして、一緒でも問題ないと考えている。

【高取部会長】 子育て支援という言葉は広い意味で用いられているということか。

【担当課】 そうである。

№. 221 学校教育

【事務局】 (担当課紹介)

【高取部会長】 今後5年間の課題と方向性について担当課より説明をお願いしたい。

【担当課】 生駒北小中学校の一貫教育化を実施した。老朽化対策としてトイレ改修を行っており、小学校は今年度中に終わるが、中学校は引き続き行っていく。ICT教育については、機器の整備費用がかかるが、今年度に大型ディスプレイを全小中学校に導入する。学校給食センターは、現在の施設に加えて、今年度から生駒北学校給食センターの建設に着手している。

【高取部会長】 ソフト面で積み残した課題は今後どうなるのか。

【担当課】 児童・生徒の自己有用感や自他の生命を尊重する意識などを今後高め

ていく必要がある。新学習指導要領に合わせて、新しい指導方法や、公の仕事の半分がA I に取って代わると言われている現状を踏まえると、子どもたちが将来生き抜いていく力など様々な力を今後つけさせることが必要になってくる。また、子どもたちの自己効力感の向上も課題だと考えている。

【高取部会長】 5年間で達成できそうか。

【担当課】 新学習指導要領では、ICTの指導や小学校で英語が教科として含まれてくる。現在は英語教育に力を入れながら様々な取組を進めている。新学習指導要領の教育内容に対応したICT機器の活用については今後検討しながら進めていく。

【高取部会長】 「現状と今後5年間の展望」と「今後5年間の主な課題」は他分野と比較して内容が多いのでスリム化をお願いします。「5年後のまち」については、大きく、①学校教育、②特別支援教育、③学校教育と3つ挙がっているが、①は教育（ソフト面）、③はハード面という整理でよいか。そうであれば、「行政の5年間の主な取組」の①2や①10、11もハード面に入ると思う。また①14は既にされているので、再考をお願いしたい。指標について、①1と①2は第5次から引き続きの指標だと思うが、各指標は何を反映しているのか。

【担当課】 ①1は心のケアに対してどういう取組を進めているか、①2は全国学力状況調査の、「読書が好きか」、「学校の授業以外に1日あたりどのくらい読書をするか」という設問の回答の数値を利用している。それらの数値は、文章を読み取る力の指標となり、そうした力は子どもたちが学習の理解を進める上で必要な力のひとつだと考えている。①4は自己肯定感、自己有用感を反映している。①5は特色ある学校運営を表す指標であり、学校独自の推進事業の取組実施回数になっている。

【高取部会長】 30分以上の読書をしている児童生徒が増えることが、学校教育の効果を表す指標としての有用性がわかりにくい。

【担当課】 「伝え合う力」の育成として、読書活動は重要と考えている。

【高取部会長】 ①1の相談件数については、多い方が良いということか。

【担当課】 相談件数の数だけ対応できていると考えられるし、小さい芽のうちか

ら先生方が気づき、子どももすぐに相談しようという姿勢につながり、早期発見、予防・防止にもつながると考えている。

【高取部会長】 相談が減ることも良い、とも解釈できるがいかがか。

【担当課】 相談件数が減ることも大事だと思うが、小さなことから先生方に子どもたちの問題として捉えてもらうことで、子どもたちに手厚く関わっていきける、という方向性で考えている。

【高取部会長】 「行政の5年間の主な取組」だが、最近は災害がいつ起こってもおかしくない状況にあるので、現状の安全のレベル、危険度合いのリスクの把握が必要。壁の倒壊や土砂崩れ等の各小学校の危険性のリスク度合いはどのくらい把握しているか。

【担当課】 生駒中学校が土砂災害警戒区域の対象になっており、土砂災害の危険性が高まった場合には、生駒中学校の子どもは別の避難所に避難するよう対策をしている。

【高取部会長】 大阪府北部地震による壁の崩落事故では、事前のチェックでは問題なかったが、事故が起きて話題になった。生駒市でのチェック体制はどうなっているか。

【担当課】 生駒市でも体制は整っているが、ブロック塀の点検は行っていなかった。今回の事故を受けて、点検を実施し、今年度中には危険箇所の撤去が終了する予定。建物の耐震化は、すでに終わっている。

【藤尾委員】 生駒では、あの事故以降すぐに生駒小学校のブロック塀が撤去され、対応が早いと感じた。

【担当課】 建築基準法に適合していなかったため早急に撤去した。学校では、地震防災計画に沿って、強い揺れがあった時は高い建物や壁からは離れるよう指導をしている。

【藤尾委員】 核家族化が進み、昔のように教えてくれる人がいない地域環境にある。顔見知りの子どもでなくても、注意できる体制づくりがこれからますます必要になってくると思う。

【高取部会長】 あすか野小学校は山が近く、生徒が「山が崩れたら危ない」と言っている。学校のチェックでは大丈夫でも、子どもから見て怖いところはあり、ギャップがあると思う。庁内連携に関して、高齢世代との世代間交

流等の今後の取組方針はいかがか。

【担当課】 指標の学校創造推進事業で学校ごとに特色ある取組を進めている。小学校1、2年生の昔遊びの際に老人会の方に来てもらったり、市内のいくつかの小学校では校区内にある老人ホーム等に慰問という形で触れ合う機会を設けたり、それぞれ活動している。

【藤尾委員】 子ども会の組織がほぼ壊れてきており、活動が進んでいない。自治会は手を差し伸べているが、親が協力的でないこともある。PTA活動も衰退していると聞いている。子ども神輿など場の提供はしているが、集まってこない。子ども会の活動もワンパターンになっており、今どきのニーズに対応するために、今の親が何を望んでいるのか調べてほしい。それにより、自治会活動も大きく変えていけると思う。

【担当課】 壱部小学校区では「やまびこネットワーク」の活動をしている。鹿ノ台小学校では夏休みに芝生に寝そべて星空を見る会など、地域ぐるみで活動している。地域ごとに工夫して子育て支援をしているので活性化していってもらえたらと思う。

【藤尾委員】 老人会も取組を考えているが、肝心の子どもの参加が少なく残念。

【村上委員】 読書は、時間で区切るのではなく、どんな本を読んでいるか、冊数が大事ではないか。

【担当課】 各小中学校に週に3回、学校司書を派遣して、学校図書館の環境整備や読み聞かせもしており、子どもたちの読書に対する関心も高まっている。中学校でもビブリオバトル大会を実施しているので、啓発や意識付けは進んでいると考えている。

【村上委員】 漫画でも教育に有益なものもある。子どもたちの個性のどこに琴線が触れるかで、教育に広がりが出ると思う。

【高取部会長】 わかりやすい歴史本など学びのある漫画もある。

【担当課】 学びのある漫画は置いている。

【藤尾委員】 生駒市は学校給食に力を入れてくれているのは大変ありがたい。

【担当課】 現状の給食センターは8中学校対象、新しくできる給食センターは小学校12校対象で、基本的にはメニューも異なる。

№. 222 青少年育成

【事務局】 (担当課紹介)

【高取部会長】 第5次の積み残した課題と、今後5年間に向けての達成したい目標や方向性を担当課にお聞きしたい。

【担当課】 新事業として、子ども・若者の支援窓口が立ち上がったので、力を入れていきたい。

【高取部会長】 今の課題はどうか。

【担当課】 ニート・ひきこもりの方を対象にした生駒市独自の相談窓口ができた。そういった方々からのニーズに対して取り組んでいきたいと考えている。

【高取部会長】 「4年後のまちに向けて残した主な課題」にある、「担い手の高齢化や新たな担い手が見つからず～」などは大きな問題だと思うが、それに対する第6次での対応状況はいかがか。

【担当課】 家庭教育のワークショップを開催した。その中から、青少年育成の団体が発足し、事業も始めていくので、広がっていけばいいと思っている。

【高取部会長】 「今後5年間の主な課題」と「5年後のまち」の「生き抜く力」という表現は漠然としているが、青少年育成の5年間の取組の柱はどのようなものか。

【担当課】 学校教育を含めて「生きる力」という言葉がよく使われている。一人ひとりがどのような力をそのように考えるかは多様性があると思うので、どのように表現するか難しい。

【高取部会長】 「今後5年間の主な課題」の①は生駒だけでなく、日本全国の課題であるが、ライフスタイルや若者の考え方が変わってきており、現実的ではない。具体的にはどのような取組や事業にリンクしていくのか。

【担当課】 「具体的な事業」にある、ユニバーサルキャンプ事業がひとつである。また、子ども・若者相談窓口では、引きこもりやニートに限らず、多様な課題に取り組んでいくが、あくまでも一例で、これがすべてではない。

【高取部会長】 若者の潜在的な能力を引き出すきっかけになる事業はあるか。

【担当課】 サマーセミナーという事業がある。多様な年齢の方が自分の得意分野の先生になる講座で今回も80講座を予定していた。青少年が先生というグループは少ないが、ゆくゆくは、小学生が先生になれる分野もあると

思うので、そういったものもひとつのきっかけになると思う。

【高取部会長】 子ども・若者育成支援推進大綱の中に示されている5つの重点課題は、今回の第6次の中に踏まえられているのか。

【担当課】 事業や理念、内容には5つの重点課題は盛り込んでいるが、明確にした方がわかりやすい、ということであれば、書き方について検討したい。

【高取部会長】 重点課題にも「創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援」と挙げられているので、これに対応する事業も含めていただきたい。基本的には、重点課題を押さえているが、分量の関係で書ききれていないということと理解した。

【担当課】 科学技術人材等の育成として、今春に「いこまっこチャレンジ教室」で高専の生徒が指導者となってITにチャレンジする、という取組も行っている。また、高校のE S Sの方による英語教室も開催しており、この辺りも重点的に取り組みたい。

【高取部会長】 奈良先端科学技術大学でもそういった活動をされている。

【担当課】 まだ実現していないが、声掛けはしているので、広げていきたい。

【高取部会長】 不登校やひきこもり、ニート等の数の推移は指標に挙げる必要があるのではないか。

【担当課】 公立の小中学校の不登校数は教育指導課が数を把握しているが、ひきこもりやニートの正確な数の把握は難しい。推定するとすれば、国が出している割合を生駒の人口にかけて算出するレベルで、類推だけになってしまうため、指標として捉えるのは難しい。

【高取部会長】 ひきこもりやニートの問題について、個別対応として、具体的に手を差し伸べることは難しいということか。

【担当課】 その通りである。ただ、生駒市では今年1月から窓口を立ちあげた。周知や口コミで新しく相談に来る方が増えている。他の自治体に先駆けて対応できる見込みはある。ニートは15歳から39歳が対象だが、40歳以上も受け入れている。年齢が上がれば高齢者の担当課の問題になると思うが、まだ立ち上がったばかりなので、実際のニーズや状況を鑑みて発展していけたらいいと考えている。

【高取部会長】 高齢者でいう閉じこもりの把握や対応にあたると思うが、地域の実情

を一番把握しているのは民生委員になるのか。

【藤尾委員】 はい。地域のことは把握できていると思う。誰がどうというのは言えないので、遠くから見守るくらいしかできない。当事者は若い世代で、サポートしているのは高齢の親なので、どう地域で支えていくか。トラブルが発生した時のためにも自治会が把握すべきだが、プライバシーの問題があり、難しい。電話相談窓口など相談場所はあるが、抱え込んでしまう方もいる。何重にもサポートする重複した関わりを持たないといけない。

【担当課】 子ども・若者支援はネットワークが1つの大きな柱で、人権擁護委員や民生児童委員などにネットワークに入ってもらっている。学校関係者や行政のケアも含めたいろいろな目で見守る必要がある。

【高取部会長】 ひきこもりやニート等の数を把握できて、他市よりも少ないということであれば、それだけで生駒の青少年育成がうまくいっていると強く言えるのではないか。今の指標はそういう点を把握できるものではないので、問題に対する指標があっても良い。地域の人子どもを怒ることも難しい中で、青少年の見守りを地域でやるのはハードルが高い。地域づくりで若者の応援はどのように取り組んでいくのか。

【担当課】 家庭教育のワークショップを行い、今年から団体が発足している。その方々の発想は新しいものが多いので、まずは、これをきっかけにネットワークを広げていきたい。これを足掛かりに新しいことが広がっていく期待を持っている。

【高取部会長】 言葉だけで見ると絵に描いた餅に見えてしまう。時代が違う、としか言いようがないが、地域とのつながりを感じながら、と書かれると難しいと思ってしまう。

【藤尾委員】 昔は青年団があった。その制度が地域づくりの中に再度必要になってくるのではないか。今はコーディネーターや専門家にすべて任せる流れになっている。イベントに出かけられる人はいいが、行けない、行かない方の受け皿になるのが、「地域」だと思う。家族内でも孤立化が進んでいるように、地域や家庭内での関係の希薄化は「個人個人を大事にしましょう」という教育の抜け道だったかと思う。

【高取部会長】 庁内連携について、今後具体的な事業があればお聞きしたい。

【担当課】 商工観光課との連携では、商工会議所の協賛を得て生駒山麓公園でユニバーサルキャンプなどを行っている。多様な企画をしているので、その都度いろいろな部署に声をかけている。

№. 331 生涯学習・スポーツ

【事務局】 (担当課紹介)

【高取部会長】 第5次で積み残した課題と、第6次の5年間のめざすべき方向性の説明を担当課より願います。

【担当課】 子どもから高齢者まで、あらゆる機会に生涯学習を学びかつ生かしたいと考えている。昨年、寿大学とワークショップを開き、その方々が社会還元を含めた団体を今年中に立ち上げる。指定管理を含めた生涯学習施設で楽しく生きがいとなるような生涯学習をしていきたい。

【担当課】 総合型地域スポーツクラブができたことにより、スポーツをする環境は整ってきた。施設では、指定管理者が様々な企画をしている。生駒北スポーツセンターができ、北部のスポーツセンターの中心として様々な活動をしている。課題としては、高齢の方々がスポーツできる環境はできているが、子育て世代や働く世代が日常的にスポーツをする環境整備や普及への取組をしていく必要がある。障がいがある方の参加の機会に対応していく課題もある。指導者については、スポーツリーダーバンクに登録している方はたくさんいるが、登録している方とスポーツをする方との結びつきがないので、第6次では、積極的に身近な場所でスポーツに親しめるような環境を作っていきたい。また、総合型地域スポーツクラブの会員をもっと増やしていきたいと考えている。

【高取部会長】 総合型地域スポーツクラブの推進はどのような状況か。

【担当課】 会員は増えているが、認知度が低く、企業がやっているイメージがあるので、公共性の高い団体であることをもっと啓発して会員になってもらう働きかけが重要だと思っている。国・県をあげての取組の必要性を感じている。地域のスポーツの広がりについては、スポーツ推進委員に地域と密着して軽スポーツなどの普及に努めてもらっている。

- 【高取部会長】 スポーツ推進委員の方々の現状はいかがか。
- 【藤尾委員】 若い人も入ってきて、活性化できたと思っているが、若い人が参加しにくい時間だと、結局高齢者ばかりになるのが残念。高齢者の体力に合わせたスポーツの在り方の勉強の場を作り、広げていく必要がある。地域の活動の中で、ついでに軽スポーツをしてもらう体験の場を設けることで、高齢者スポーツが広がってほしいと思う。
- 【高取部会長】 学校体育施設の利用拡大や学校体育の受け皿づくり、早朝運動の促進についての対応状況はいかがか。
- 【担当課】 学校体育施設の利用拡大の内容は、学校体育施設の有料化である。学校体育施設は、決まった団体がずっと使っていたり、同じような団体でも社会体育施設にはお金を払っている、という問題があり、安い金額でも負担してもらえないか、ということで、現在、他市の状況調査や、学校の現状把握に努めているが、まだ一步踏み込めていない。学校体育の受け皿づくりについては、総合型などのクラブの方が学校へ行って指導する、ということを考えているが、まだできていない。早朝運動の促進では、早朝に施設で運動してもらう取組である。しかし、条例に載っていない時間のため、指定管理者が許可する範囲で、早朝に施設を借りてラジオ体操などを実施している。
- 【高取部会長】 早朝運動の促進というのはラジオ体操の実施のことかと思っただが、施設での早朝の運動も含んでいるということか。
- 【担当課】 その通りである。ベルテラスでも朝一体操をしている団体もある。
- 【高取部会長】 図書館だが、指標が第5次から変わっているが、変わった背景や理由はどういったことか。
- 【担当課】 社会的背景が変わり、本を借りて調べるよりインターネットで調べるが増え、また、少子高齢化で図書館の貸出冊数が減ってきたため指標を変えた。少しずつだが、「まちかど図書室」の活動を進めている。移動の問題が大きい高齢の方など図書館に来るのが難しい人もいる。また、地域コミュニティの希薄化の問題もあるので、自治会の集会所などに本を置いたり、図書館から出向いて本のイベントをしたり、本を切り口にして集まる場を作っていきたいと考えている。そういったサービスの一

環として、まちかど図書室を運営する団体には一般の利用者とは違う枠組みの冊数・期間で借りてもらうことにしている。団体貸出登録数の増加によって、まちかど図書室が増え、図書館が中心となってまちづくりに寄与していることを反映できると考え、目標設定を変えた。

【高取部会長】 まちかど図書室は臨時図書館みたいな単発のイベント的なものか。

【担当課】 包括支援センターの待合室などに本を置いてもらい、お茶も飲めるようにし、知らず知らずのうちに人が集まって会話が進む、という雰囲気を作ってもらっている。そうした取組を図書館も支援しながら進めていけたらと考えている。本が切り口になるのであれば単発でも構わない。

【高取部会長】 包括支援センターのようにコーナーを設けているケースと、移動型の単発のイベントなど、どういうタイプが多いのか。

【担当課】 始まったばかりなので答えられないが、自治会や子ども会などが主体となって図書館が支援する、という形を考えている。

【高取部会長】 要望があれば本を持っていくということか。

【担当課】 そうである。貸し出し、もしくは図書館で古くなった本や市民からの寄贈本の余ったものを譲ることも考えている。

【高取部会長】 「5年後のまち」の①の生涯学習については、文章が長いので、スリム化をお願いする。また、生涯学習の具体的な事業に寿大学等が入ると思うが、記載がないのはなぜか。

【担当課】 たくさんの取組をしており、どこまで具体化して書くべきか悩んだため、他課の記載との整合性を見てから記載しようと考えた。もちろん高齢者の生涯学習については何か載せたいと考えている。

№. 332 歴史・文化

【高取部会長】 原課から見て、生涯学習の定義と歴史・文化活動の住み分けはどのようにお考えか。

【担当課】 生涯学習の定義としては、学校教育以外は生涯学習になるので、非常に幅広い。また、生駒の生涯学習の特長は市民が文化活動・歴史活動に生涯学習の一環として主体的に取り組み、その成果をまちづくりに生かしているため、生涯学習と歴史・文化活動は重複していてすみ分けは難

しい。歴史・文化も、生涯学習の中にまとめてもよいのではないか。

【高取部会長】 生涯学習は「学習」が根本にあると改めて認識した。そこから考えると、No. 331の「具体的な事業」の①1の「ファミリーコンサート」は音楽なので文化ではないか。

【担当課】 第5次では「音楽」は文化に入っていたが、生涯学習の視点で見ると、「音楽」という切り口ではなくて、市民が参加して生涯学習とその成果をまちづくりに生かすひとつという観点のほうが大きいと考え、生涯学習と考えた。このように歴史・文化と生涯学習は分けられないので、区分けを再考してもらいたい。

【高取部会長】 歴史・文化の分野は第5次と比べて、どういう課題になるのか。

【担当課】 第5次の歴史・伝統文化、文化財という観点で捉えた場合は、ふるさとミュージアムを中心として若い世代も含めて、歴史・伝統文化に興味を持ってもらい、ふるさとに対する思いを築いていきたい。そのため、ふるさとミュージアムのワークショップを行い、市民から意見を聞きながら新しい企画やイベントなども考えている。生駒は茶釜が有名なので、小学校6年生の茶道体験を通じて、文化を身近に感じてもらう機会を作っている。そういう意味でも生涯学習と分けられない部分があると思っている。

【高取部会長】 芸術の記載がないが位置づけはいかがか。

【担当課】 芸術協会なども関わり、市民の学びとして生涯学習の分野で考えていたが、ボリュームの関係で明記できていない。

【高取部会長】 芸術は生涯学習ということか。

【担当課】 行政が一方的に何かをするというよりも、市民が参加して、盛り上げたり伝えたりするところが、生駒の良い点である。

【藤尾委員】 生駒の文化や伝統などを大きな柱に、生涯学習やスポーツがあるのに、歴史がついでになっている。文化や伝統を大事にし、それを伝承する仕組みができて、そこから派生するのが本来の行政のあり方かと思うが、生駒はそこが弱い。

【担当課】 もちろん歴史・伝統文化も重視している。総合計画はひとつを切り分けてしまうと、具体的な事業や課題をどちらかに書かないといけない。

生涯学習の中で、今は青少年、生涯学習、歴史文化で分かれているが、それぞれを重複させながら結びつけて計画を作成していくと市民にわかりやすいと思う。そのため、今のように分けられるのは難しい。

【藤尾委員】 歴史や文化を次の世代が伝承していく部分が弱いので、もっと重視してほしい。

【事務局】 補足として、市民が主体となって協働していくことは、基本理念において、あらゆる分野で謳っている。分野を分ける際にもそれぞれの事業を参照している。

【高取部会長】 そもそも生涯学習と歴史・文化の分野をきっちり分けるのは難しい。

【藤尾委員】 学習と伝承は違う。歴史とは伝承するもの、学びながら深く歴史をかみしめていくもの、という教育を受けたが、今の教育方針が違うのか。

【高取部会長】 伝承する人を育成する、という問題と、学ぶことは切り分けられる。生涯学習を通して歴史・文化を学ぶとなると、切り分けられない。

【藤尾委員】 生涯学習や歴史を学ぼうとがんばっている方が高齢化していることも問題。昔は料理や歴史を学ぶなど活発な生涯学習部があったが、今は違う形の生涯学習が立ち上がってきている。

【高取部会長】 第5次の課題として、集客方法や参加者数満足度、市民文化活動の活性化が挙げられているが、第6次の対応の記載がない。来館者数はふるさとミュージアム単体ではなく、全部まとめてか。

【担当課】 歴史・伝統文化の拠点として、ここで指すのは、生駒ふるさとミュージアムになる。

【高取部会長】 「今後の5年間の主な課題」に「働く世代、若年層にとっては～」とあるが、若い世代に向けた取組はどのようなものか。

【担当課】 ワークショップを開催している。まずはその中でアイデアを聞いて、市民とともにやっていくことも検討している。

【高取部会長】 興味を持っている人はいると思う。PR不足ということはないか。

【担当課】 PR不足もあるかもしれない。デジタルミュージアムも平成30年4月にリニューアルしたので、もっと広めていく必要がある。

(2) その他

【 担 当 課 】 生涯学習課の担当分野について、生涯学習と文化が切り分け難いことやボリュームの関係で区分けを変更するのは、事務局の秘書企画課との話し合いか。

【 事 務 局 】 事務局と担当課で協議するが、小分野の再編については、全体会で協議してきた案件なので、変更する場合は、第5回の全体会で諮りたい。総合計画に関しては、文化振興の行政としての役割があるので、それを分野として持つのか、他と一緒にするほうが市民からわかりやすいのか、他市の状況も見て判断する必要がある。

【 事 務 局 】 （事務連絡）

【 事 務 局 】 これをもって、第4回生駒市総合計画審議会第三部会を終了する。

— 了 —